

(様式第1号)

令和 元年 6月 30日

認定介護福祉士認証・認定機構

理事長 大島 伸一 様

領 域 名 : リハビリテーションに関する領域

科 目 名 : 自立に向けた生活をするための支援の実践

単 位 数 : 2単位

認証申請する研修の名称 : 自立に向けた生活をするための支援の実践(認定介護福祉士養成研修)

団体名 : 一般社団法人愛知県介護福祉士会

団体事務所の所在地 : 〒 460-0001

愛知県名古屋市中区三の丸1丁目7-2 桜華会館内

電話 : 052-202-8260

FAX : 052-202-8280

E-mail : info@aichi-kaigo.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者 : 会長 下山久之 印

申請責任者 : 下山久之

記

○認定介護福祉士研修認証申請書(別紙1~3)

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	

(別紙1) 認定介護福祉士研修認証

※申請受付番号 _____

(※は記入しないでください)

認定介護福祉士研修認証申請書

申請年月日	2018年10月31日
申請団体名	一般社団法人愛知県介護福祉士会
申請団体代表者氏名	会長 下山久之
申請責任者職名	会長 下山久之
申請責任者氏名	下山久之
団体住所	〒460-0001 愛知県名古屋市中区三の丸1丁目7-2 桜華会館内
同 Tel・Fax	Tel : (052)-(202)-(8260)
メールアドレス	Fax : (052)-(202)-(8280) E-mail <u>info@aichi-kaigo.jp</u>
申請対象の領域	領域名 : リハビリテーションに関する領域
科目名 (単位数)	科目名 : 自立に向けた生活をするための支援の実践 (2単位)
申請する研修名	自立に向けた生活をするための支援の実践(認定介護福祉士養成研修)
研修認証実績	年 認証番号 ()
	年 認証番号 ()
	年 認証番号 ()
その他特記事項	

(別紙2) 認定介護福祉士研修認証

認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	リハビリテーションに関する領域	
科目名	自立に向けた生活をするための支援の実践	
(1) 提供する研修について		
研修名	自立に向けた生活をするための支援の実践(認定介護福祉士養成研修)	
研修目標	<p>○残された能力を使って、生活範囲と動作の拡大を図ることができる力を習得する。</p> <p>○変形・拘縮の予防などを理解し、生活の中で実施することができる力を習得する。</p>	
到達目標	<p>① 更衣・食事(摂食・嚥下)・排泄・入浴・整容等の日常生活動作全般に関する考え方や知識を習得し、支援に活用できる。</p> <p>② 高齢者や障害者にとっての栄養を理解し、支援に活用できる。</p> <p>③ 利用者の疾患・障害等に応じて、更衣・食事(摂食・嚥下)・排泄・入浴・整容等を支援する根拠を理解し、疾患・障害等に応じた適切な支援を選択・実践できる。</p> <p>④ 移動(移乗を含む)の意味や目的を理解し、利用者の状態に応じて適切な移動方法を選択・実践できる。</p> <p>⑤ リハビリテーション職種との連携や介護チームの指導を行うために必要な知識・技術をみに付け、支援の根拠を言語化し、連携や指導ができる。</p> <p>⑥ 利用者の能力を活かす支援を考えることができる。</p> <p>⑦ 可能な限り利用者の社会参加の機会をつくることができる。</p>	
研修内容(研修プログラム)	含むべき内容	研修プログラム
	<p>課題学習(8時間)</p> <p>1. 疾患別リハビリテーションの基礎(4時間)</p>	<p>課題学習(8時間)</p> <p>1 疾患別リハビリテーションの基礎(4時間)</p> <p>テキスト『ADLとその周辺』『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学』を読み、課題に取り組む。自職場の利用者に即し、理解を深める。</p> <p>○脳神経疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症：MCI、アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症 ・神経筋疾患：パーキンソン病、ギランバレー症候群等 <p>○脳血管障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、TIA等 <p>○高次脳機能障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注意障害、記憶障害、遂行機能障害 ・失語症、観念失行、観念運動失行、相貌失認、町並失認、

	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的行動障害 ○精神障害 <ul style="list-style-type: none"> ・統合失調症、気分障害、アルコール関連障害、等 ○循環器・呼吸器疾患 <ul style="list-style-type: none"> ・循環器・呼吸器疾患：虚血性心疾患、慢性閉塞性肺疾患、誤嚥性肺炎 ・代謝系疾患：メタボリック症候群（高血圧・脂質異常症・糖尿病・肥満） ○筋骨格系疾患 <ul style="list-style-type: none"> ・骨関節疾患：変形性関節症、骨粗鬆症、関節リュウマチ ・高齢者に多い骨折等（大腿骨頸部骨折、橈骨遠位端骨折、腰椎圧迫骨折、等） ○切断・脊髄損傷 <ul style="list-style-type: none"> ・損傷部位と障害 ○知的障害 <ul style="list-style-type: none"> ・知的障害、適応障害 ○発達障害 <ul style="list-style-type: none"> ・広汎性発達障害 ・学習障害 ・注意欠陥・多動性障害 ○その他の疾患 <ul style="list-style-type: none"> ・白内障、緑内障 ・老人性難聴、等
<p>2. 日常生活動作（ADL）指導（1時間）</p>	<p>2 日常生活動作（ADL）指導（1時間）</p> <p>テキスト『ADLとその周辺』『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学』を読み、課題に取り組む。自分自身の生活ならびに自職場の利用者の生活に即し、理解を深める。</p> <p>○更衣・食事（摂食・嚥下）・排泄・入浴・整容等の日常生活動作全般についての知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更衣、食事（摂食・嚥下）、排泄、入浴、整容、コミュニケーション等
<p>3. 日常生活動作（ADL）介助・支援（1時間）</p>	<p>3 日常生活動作（ADL）介助・支援（1時間）</p> <p>テキスト『ADLとその周辺』『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学』『家庭でできるリハビリテーション シリーズ1 起きましようすわりましよう理学療法士がすすめる動作の介助法』</p>

	<p>『高齢者のための車いすフィッティングマニュアル』を読み、課題に取り組む。自職場の利用者に即し、理解を深める。</p> <p>○疾患・障害等について、疾患・障害等の特徴を踏まえた日常生活動作の支援を実施するための知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更衣、食事（摂食・嚥下）、排泄、入浴、整容、コミュニケーション、自立支援、残存機能
<p>4. シーティング・移動（移乗を含む）支援（1時間）</p>	<p>4 シーティング・移動（移乗を含む）支援（1時間）</p> <p>テキスト『ADLとその周辺』『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学』『家庭でできるリハビリテーション シリーズ1 起きましようすわりましよう理学療法士がすすめる動作の介助法』『高齢者のための車いすフィッティングマニュアル』を読み、課題に取り組む。自職場の利用者に即し、理解を深める。</p> <p>○現在の心身機能で行える、確実・安全な移動方法の選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポジショニング ・車いすのシーティング <p>○獲得可能な移動方法の選択</p> <p>○各移動手段獲得</p> <p>○獲得すべき移動手段に必要な能力・機能の評価</p>
<p>5. リハビリテーション職種との連携やチームの指導を行うために必要な知識・技術（1時間）</p>	<p>5 リハビリテーション職種との連携やチームの指導を行うために必要な知識・技術（1時間）</p> <p>テキスト『ADLとその周辺』『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学』を読み、課題に取り組む。自職場の利用者に即し、理解を深める。</p> <p>○連携とチーム指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション技術 ・多職種連携 ・コーチング・ティーチング

<p>集合学習（22 時間）</p> <p>1. 疾患別リハビリテーションの基礎 ※ 1 と 3 を合わせて講義と演習を行う。 (16 時間)</p>	<p>集合学習（22 時間） (1 日目)</p> <p>8：45～9：00 オリエンテーション</p> <p>1 疾患別リハビリテーションの基礎 ※ 1 と 3 を合わせて講義と演習を行う。 (16 時間。ただし 1 時間を 4 5 分として換算する)</p> <p>テキスト『ADL とその周辺』『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学』について講義形式での解説後、自職場の利用者に即し、以下の内容を理解する。課題を基にグループワークを行う。</p> <p>○脳神経疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症：MCI、アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症 ・神経筋疾患：パーキンソン病、ギランバレー症候群等 <p>○脳血管障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、TIA 等 <p>○高次脳機能障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・注意障害、記憶障害、遂行機能障害 ・失語症、観念失行、観念運動失行、相貌失認、町並失認、 ・社会的行動障害 <p>○精神障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・統合失調症、気分障害、アルコール関連障害、等 <p>○循環器・呼吸器疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ・循環器・呼吸器疾患：虚血性心疾患、慢性閉塞性肺疾患、誤嚥性肺炎 ・代謝系疾患：メタボリック症候群（高血圧・脂質異常症・糖尿病・肥満） <p>○筋骨格系疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ・骨関節疾患：変形性関節症、骨粗鬆症、関節リュウマチ ・高齢者に多い骨折等（大腿骨頸部骨折、橈骨遠位端骨折、腰椎圧迫骨折、等） <p>○切断・脊髄損傷</p> <ul style="list-style-type: none"> ・損傷部位と障害 <p>○知的障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的障害、適応障害 <p>○発達障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広汎性発達障害 ・学習障害
---	--

・注意欠陥・多動性障害

○その他の疾患

- ・白内障、緑内障
- ・老人性難聴、等

9：00～10：30 担当：来島

○脳神経疾患

・認知症：MCI、アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症

・神経筋疾患：パーキンソン病、ギランバレー症候群等

○疾患・障害等について、疾患・障害等の特徴を踏まえた日常生活動作の支援を実施するための知識

・更衣、食事（摂食・嚥下）、排泄、入浴、整容、コミュニケーション、自立支援、残存機能

●導入講義 20分

●演習 50分

●フィードバック講義 20分

10：30～10：45 休憩

10：45～12：15 担当：来島

○脳血管障害

・脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、TIA等

○疾患・障害等について、疾患・障害等の特徴を踏まえた日常生活動作の支援を実施するための知識

・更衣、食事（摂食・嚥下）、排泄、入浴、整容、コミュニケーション、自立支援、残存機能

●導入講義 20分

●演習 50分

●フィードバック講義 20分

12：15～13：15 昼食休憩

13：15～14：45 担当：来島

○高次脳機能障害

・注意障害、記憶障害、遂行機能障害

・失語症、観念失行、観念運動失行、相貌失認、町並失認、

・社会的行動障害

○疾患・障害等について、疾患・障害等の特徴を踏まえた日常生活動作の支援を実施するための知識

・更衣、食事（摂食・嚥下）、排泄、入浴、整容、コミュニケーション、自立支援、残存機能

●導入講義 20分

●演習 50分

●フィードバック講義 20分

14：45～15：00 休憩

15：00～16：30 担当：来島

○精神障害

・統合失調症、気分障害、アルコール関連障害、等

○疾患・障害等について、疾患・障害等の特徴を踏まえた日常生活動作の支援を実施するための知識

・更衣、食事（摂食・嚥下）、排泄、入浴、整容、コミュニケーション、自立支援、残存機能

●導入講義 20分

●演習 50分

●フィードバック講義 20分

16：30～16：45 休憩

16：45～17：00

一日の振り返り

事務連絡

(2日目)

8：45～9：00 オリエンテーション

9：00～10：30 担当：来島

○循環器・呼吸器疾患

・循環器・呼吸器疾患：虚血性心疾患、慢性閉塞性肺疾患、誤嚥性肺炎

・代謝系疾患：メタボリック症候群（高血圧・脂質異常症・糖尿病・肥満）

○疾患・障害等について、疾患・障害等の特徴を踏まえた日常生活動作の支援を実施するための知識

・更衣、食事（摂食・嚥下）、排泄、入浴、整容、コミュニケーション、自立支援、

残存機能

- 導入講義 20分
- 演習 50分
- フィードバック講義 20分

10:30～10:45 休憩

10:45～12:15

○筋骨格系疾患

・骨関節疾患:変形性関節症、骨粗鬆症、
関節リュウマチ

・高齢者に多い骨折等(大腿骨頸部骨
折、橈骨遠位端骨折、腰椎圧迫骨折、等)

○切断・脊髄損傷

・損傷部位と障害

○疾患・障害等について、疾患・障害等
の特徴を踏まえた日常生活動作の支援
を実施するための知識

・更衣、食事(摂食・嚥下)、排泄、入浴、
整容、コミュニケーション、自立支援、
残存機能

●導入講義 20分

●演習 50分

●フィードバック講義 20分

12:15～13:15 昼食休憩

13:15～14:45

○知的障害

・知的障害、適応障害

○発達障害

・広汎性発達障害

・学習障害

・注意欠陥・多動性障害

○疾患・障害等について、疾患・障害等
の特徴を踏まえた日常生活動作の支援
を実施するための知識

・更衣、食事(摂食・嚥下)、排泄、入浴、
整容、コミュニケーション、自立支援、
残存機能

●導入講義 20分

●演習 50分

●フィードバック講義 20分

14:45～15:00 休憩

	<p>15 : 00～16 : 30</p> <p>○その他の疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白内障、緑内障 ・老人性難聴、等 <p>○疾患・障害等について、疾患・障害等の特徴を踏まえた日常生活動作の支援を実施するための知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更衣、食事（摂食・嚥下）、排泄、入浴、整容、コミュニケーション、自立支援、残存機能 <ul style="list-style-type: none"> ●導入講義 ●演習 50分 ●フィードバック講義 20分 <p>16 : 30～16 : 45</p> <p>一日の振り返り 事務連絡</p> <p>(3日目)</p> <p>8 : 45～9 : 00 オリエンテーション 9 : 00～10 : 30 担当 : 来島</p> <p>2 日常生活動作 (ADL) 指導 (2時間。ただし1時間を45分として換算する) テキスト『ADLとその周辺』『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学』について講義形式での解説後、自職場の利用者に即し、以下の内容を理解する。課題を基にグループワークを行う。</p> <p>○更衣・食事（摂食・嚥下）・排泄・入浴・整容等の日常生活動作全般についての知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更衣、食事（摂食・嚥下）、排泄、入浴、整容、コミュニケーション等 <ul style="list-style-type: none"> ●導入講義 20分 ●演習 50分 ●フィードバック講義 20分 <p>10 : 30～10 : 45 休憩</p> <p>3 日常生活動作 (ADL) 介助・支援 ※1と3を合わせて講義と演習を行う。(16時間。ただし1時間を45分として換算する) テキスト『ADLとその周辺』『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学』『家</p>
<p>2. 日常生活動作 (ADL) 指導 (2時間)</p>	
<p>3. 日常生活動作 (ADL) 介助・支援 ※1と3を合わせて講義と演習を行う。 (16時間)</p>	

	<p>4. シーティング・移動 (移乗を含む) 支援 (2時間)</p>	<p>庭でできるリハビリテーション シリーズ1 起きましようすわりましよう理学療法士がすすめる動作の介助法』『高齢者のための車いすフィッティングマニュアル』について講義形式での解説後、自職場の利用者に即し、以下の内容を理解する。課題を基にグループワークを行う。</p> <p>○疾患・障害等について、疾患・障害等の特徴を踏まえた日常生活動作の支援を実施するための知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更衣、食事(摂食・嚥下)、排泄、入浴、整容、コミュニケーション、自立支援、残存機能 <p>10:45~12:15 担当: 来島</p> <p>4 シーティング・移動(移乗を含む)支援(2時間。ただし1時間を45分として換算する)</p> <p>テキスト『ADLとその周辺』『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学』『家庭でできるリハビリテーション シリーズ1 起きましようすわりましよう理学療法士がすすめる動作の介助法』『高齢者のための車いすフィッティングマニュアル』について講義形式での解説後、自職場の利用者に即し、以下の内容を理解する。課題を基にグループワークを行う。</p> <p>○現在の心身機能で行える、確実・安全な移動方法の選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポジショニング ・車いすのシーティング <p>○獲得可能な移動方法の選択</p> <p>○各移動手段獲得</p> <p>○獲得すべき移動手段に必要な能力・機能の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ●導入講義 20分 ●演習 50分 ●フィードバック講義 20分 <p>12:15~13:15 昼食休憩</p>
--	--	---

	<p>5. リハビリテーション職種との連携やチームの指導を行うために必要な知識・技術（2時間）</p>	<p>13：15～14：45 担当：来島</p> <p>5 リハビリテーション職種との連携やチームの指導を行うために必要な知識・技術（2時間。ただし1時間を45分として換算する）</p> <p>テキスト『ADLとその周辺』『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学』について講義形式での解説後、自職場の利用者に即し、以下の内容を理解する。課題を基にグループワークを行う。</p> <p>○連携とチーム指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション技術 ・多職種連携 ・コーチング・ティーチング <p>●導入講義 20分</p> <p>●演習 50分</p> <p>●フィードバック講義 20分</p> <p>14：45～15：00 休憩</p> <p>15：00～15：15</p> <p>●研修の振り返り</p> <p>15：15～16：15</p> <p>●筆記試験（60分）</p> <p>16：15～16：30</p> <p>●結果発表の方法、今後の研修の流れ等</p>
<p>研修方法</p>	<p>■集合学習（集合研修）22時間</p> <p>■課題学習（通信研修）8時間</p> <p>先に課題学習（通信研修）8時間を行い、その課題（レポート等）を事前に事務所に提出し、集合学習（集合研修）22時間では、その課題学習で取り組んだレポートを基にグループワーク等の演習を交えて進めていく。</p>	
<p>研修時間</p>	<p>30時間（集合学習として22時間、課題学習として8時間）</p>	
<p>修了要件</p>	<p>課題学習における課題を提出し、集合学習におけるすべての時間に出席し、終了検定課題（筆記試験）で合格基準を満たしていることを確認する。ただし、やむを得ない理由で遅刻・早退がある場合、補講又はレポート提出をもってその不足分を補うこととする。やむを得ない事情による遅刻・早退は30分以内とし、30分を超える遅刻・早退は認めない。</p> <p>① 更衣・食事（摂食・嚥下）・排泄・入浴・整容等の日常生活動作全般に関する考え方や知識を習得し、支援に活用できる。</p> <p>② 高齢者や障害者にとっての栄養を理解し、支援に活用できる。</p>	

	<p>③ 利用者の疾患・障害等に応じて、更衣・食事（摂食・嚥下）・排泄・入浴・整容等を支援する根拠を理解し、疾患・障害等に応じた適切な支援を選択・実践できる。</p> <p>④ 移動（移乗を含む）の意味や目的を理解し、利用者の状態に応じて適切な移動方法を選択・実践できる。</p> <p>⑤ リハビリテーション職種との連携や介護チームの指導を行うために必要な知識・技術をみに付け、支援の根拠を言語化し、連携や指導ができる。</p> <p>⑥ 利用者の能力を活かす支援を考えることができる。</p> <p>⑦ 可能な限り利用者の社会参加の機会をつくることができる。</p>
講師要件（講師の選定基準）	<ul style="list-style-type: none"> ・当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験があること ・修士課程を修了していることが望ましい。 ・日常業務で介護福祉士と共に働いた経験のあるリハビリテーション専門職（理学療法士・作業療法士等）、またはリハビリテーション科専門医（大学講師以上）が望ましい。
(2)受講者について	
受講対象（受講要件）	<p>① 「認定介護福祉概論」を修了していること</p> <p>② 「生活支援のための運動学」を修了していること</p> <p>③ 「生活支援のためのリハビリテーションの知識・技術」を修了していること</p>
修了評価（習得度、研修成果）	筆記試験（試験時間は60分。筆記試験。50問程度、100点満点中60点以上で合格）に合格する。
(3)研修の環境条件	
定員（講師の配置基準）	30名 30名に対し講師1名、ファシリテーター1名を配置する。
開催場所（都道府県）	愛知県名古屋市中区三の丸1丁目7-2 桜華会館

(別紙3) 認定介護福祉士研修認証

認証申請する研修の実施体制等 (届出事項)

(1) 研修の実施予定	
実施日	① 2020年4月
	②
	③
開催場所 (会場)	① 桜華会館 (愛知県名古屋市中区三の丸1丁目7-2)
	②
	③
(2) 講師 来島修志 (日本福祉大学健康科学部リハビリテーション学科助教・作業療法士)	
<p>作業療法士資格有。介護現場で介護福祉士と就労した経験があり、現在、大学で介護福祉士ならびに作業療法士に対する教育に従事していることから講師要件に該当すると判断する。</p>	
担当、氏名及び略歴	<p>日本福祉大学大学院医療福祉マネジメント研究科修士課程修了 修士 (医療福祉マネジメント)</p> <p>日本福祉大学健康科学部リハビリテーション学科助教</p> <p>1985年4月～1988年1月医療法人朋和会東春病院 1988年2月～1990年3月国立療養所東尾張病院 1990年4月～1993年3月一宮市立市民病院今伊勢分院 1993年4月～1996年3月医療法人博寿会本部記念病院 上記の病院にて介護福祉士とともに就労し多職種協働に携わってきた経歴を持つ。</p> <p>日本福祉大学健康科学部において「作業療法評価学」「老年期作業療法学」「集団活動指導法」「日常生活活動学実習」「生理学Ⅰ実習」「認知症リハビリテーション」等の科目を担当し、健康科学部リハビリテーション学科介護学専攻 (介護福祉士資格取得を目指す学生が学ぶ専攻) の学生にも指導をしている。日本認知症ケア学会評議員であり、東海地域大会における事例検討会講師を務め、認知症の人が地域在住生活を送るための住環境や福祉用具の活用等についても指導を行っている。</p>
(3) 実施体制	
研修の企画運営の組織 (担当部局・人員)	愛知県介護福祉士会事務局 事務局長1名 事務員1名 会長・副会長1名 認定介護福祉士担当理事2名 協力員 (愛知県介護福祉士会会員) 3名
研修の企画運営に関する諸規程	愛知県介護福祉士会研修運営に関する規程
研修管理責任者職名	愛知県介護福祉士会会長
研修管理責任者氏名	下山久之
機構問合先部署	一般社団法人愛知県介護福祉士会事務局
機構問合先担当者氏名	会長 下山久之 事務局長 池田久恵

機構問合せ先電話番号/FAX	電話 052-202-8260 FAX052-202-8280
機構問合せ先 e-mailアドレス	info@aichi-kaigo.jp
受講問合せ先部署	一般社団法人愛知県介護福祉士会事務局
受講問合せ先担当者氏名	会長 下山久之 事務局長 池田久恵
受講問合せ先電話番号/FAX	電話 052-202-8260 FAX052-202-8280
受講問合せ先 e-mailアドレス	info@aichi-kaigo.jp
(4) 研修履歴の管理体制	
受講者への付与単位部門	愛知県介護福祉士会 研修事業部
受講履歴の管理方法	愛知県介護福祉士会 研修事業部・事務局により受講路歴をパソコンにて管理する。
受講履歴の証明	科目修了ごとに修了証を発行する。
管理責任者氏名	会長 下山久之 事務局長 池田久恵
管理担当者氏名	事務局長 池田久恵

認定介護福祉士研修 「自立に向けた生活をするための支援の実践」

時間	テーマ	講義・演習等	備考、留意点
(1日目) 8:45~9:00 9:00~10:30	オリエンテーション 1. 疾患別リハビリテーションの基礎 ※3. 日常生活動作 (ADL) 介助・支援 1と3を合わせて講義と演習を行う。 (担当: 来島)	講義形式と演習 ○脳神経疾患 ・認知症: MCI、アルツハイマー型認知症、血管性認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症 ・神経筋疾患: パーキンソン病、ギランバレー症候群等 ○疾患・障害等について、疾患・障害等の特徴を踏まえた日常生活動作の支援を実施するための知識 ・更衣、食事 (摂食・嚥下)、排泄、入浴、整容、コミュニケーション、自立支援、残存機能 ●導入講義 20分 ●演習 50分 (レポート課題を相互に紹介し、理解を深めていく。自職場の利用者に即し、理解を深める。) ●フィードバック講義 20分	テキスト『ADLとその周辺』『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学』 『家庭でできるリハビリテーション シリーズ1 起きましようすわりましよう理学療法士がすすめる動作の介助法』 ※事前課題を活用し、グループワークを実施する。
10:30~10:45	休憩		
10:45~12:15	1 疾患別リハビリテーションの基礎 ※3. 日常生活動作 (ADL) 介助・支援 1と3を合わせて講義と演習を行う。 (担当: 来島)	講義形式と演習 ○脳血管障害 ・脳梗塞、脳出血、くも幕下出血、TIA 等 ○疾患・障害等について、疾患・障害等の特徴を踏まえた日常生活動作の支援を実施するための知識 ・更衣、食事 (摂食・嚥下)、排泄、入浴、整容、コミュニケーション、自立支援、残存機能 ●導入講義 20分 ●演習 50分 (レポート課題を相互に紹介し、理解を深めていく。自職場の利用者に即し、理解を	テキスト『ADLとその周辺』『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学』 『家庭でできるリハビリテーション シリーズ1 起きましようすわりましよう理学療法士がすすめる動作の介助法』 ※事前課題を活用し、グループワークを実施する。

<p>12:15～13:15 13:15～14:45</p>	<p>昼食休憩</p> <p>1 疾患別リハビリテーションの基礎</p> <p>※3. 日常生活動作（ADL）介助・支援</p> <p>1と3を合わせて講義と演習を行う。</p> <p>（担当：来島）</p>	<p>深める。）</p> <p>●フィードバック講義 20分</p> <p>講義形式と演習</p> <p>○高次脳機能障害</p> <p>・注意障害、記憶障害、遂行機能障害</p> <p>・失語、観念失行、観念運動失行、相貌失認、町並失認</p> <p>・社会的行動障害</p> <p>○疾患・障害等について、疾患・障害等の特徴を踏まえた日常生活動作の支援を実施するための知識</p> <p>・更衣、食事（摂食・嚥下）、排泄、入浴、整容、コミュニケーション、自立支援、残存機能</p> <p>●導入講義 20分</p> <p>●演習 50分</p> <p>（レポート課題を相互に紹介し、理解を深めていく。自職場の利用者に即し、理解を深める。）</p> <p>●フィードバック講義 20分</p>	<p>テキスト『ADLとその周辺』『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学』</p> <p>『家庭でできるリハビリテーション シリーズ1 起きましようすわりましよう理学療法士がすすめる動作の介助法』</p> <p>※事前課題を活用し、グループワークを実施する。</p>
<p>14:45～15:00 15:00～16:30</p>	<p>休憩</p> <p>1 疾患別リハビリテーションの基礎</p> <p>※3. 日常生活動作（ADL）介助・支援</p> <p>1と3を合わせて講義と演習を行う。</p> <p>（担当：来島）</p>	<p>講義形式と演習</p> <p>○精神障害</p> <p>・統合失調症、気分障害、アルコール関連障害、等</p> <p>○疾患・障害等について、疾患・障害等の特徴を踏まえた日常生活動作の支援を実施するための知識</p> <p>・更衣、食事（摂食・嚥下）、排泄、入浴、整容、コミュニケーション、自立支援、残存機能</p> <p>●導入講義 20分</p> <p>●演習 50分</p> <p>（レポート課題を相互に紹介し、理解を深めていく。自職場の利用者に即し、理解を</p>	<p>テキスト『ADLとその周辺』『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学』</p> <p>『家庭でできるリハビリテーション シリーズ1 起きましようすわりましよう理学療法士がすすめる動作の介助法』</p> <p>※事前課題を活用し、グループワークを実施する。</p>

<p>16:30～16:45</p> <p>(2日目)</p> <p>8:45～9:00</p> <p>9:00～10:30</p>	<p>振り返りと事務連絡</p> <p>オリエンテーション</p> <p>1 疾患別リハビリテーションの基礎</p> <p>※3. 日常生活動作 (ADL) 介助・支援</p> <p>1と3を合わせて講義と演習を行う。</p> <p>(担当: 来島)</p>	<p>深める。)</p> <p>●フィードバック講義 20分</p> <p>●一日目の振り返り</p> <p>●事務連絡</p> <p>講義形式と演習</p> <p>○循環器・呼吸器疾患</p> <p>・循環器・呼吸器疾患: 虚血性心疾患、慢性閉塞性肺疾患、誤嚥性肺炎</p> <p>・代謝系疾患: メタボリック症候群 (高血圧、脂質異常症、糖尿病、肥満)</p> <p>○疾患・障害等について、疾患・障害等の特徴を踏まえた日常生活動作の支援を実施するための知識</p> <p>・更衣、食事 (摂食・嚥下)、排泄、入浴、整容、コミュニケーション、自立支援、残存機能</p> <p>●導入講義 20分</p> <p>●演習 50分</p> <p>(レポート課題を相互に紹介し、理解を深めていく。自職場の利用者に即し、理解を深める。)</p> <p>●フィードバック講義 20分</p>	<p>テキスト『ADLとその周辺』『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学』</p> <p>『家庭でできるリハビリテーション シリーズ1 起きましようすわりましよう理学療法士がすすめる動作の介助法』</p> <p>※事前課題を活用し、グループワークを実施する。</p>
<p>10:30～10:45</p> <p>10:45～12:15</p>	<p>休憩</p> <p>1 疾患別リハビリテーションの基礎</p> <p>※3. 日常生活動作 (ADL) 介助・支援</p> <p>1と3を合わせて講義と演習を行う。</p> <p>(担当: 来島)</p>	<p>講義形式と演習</p> <p>○筋骨格系疾患</p> <p>・骨関節疾患: 変形性関節症、骨粗鬆症、関節リュウマチ</p> <p>・高齢者に多い骨折等 (大腿骨頸部骨折、橈骨遠位端骨折、腰椎圧迫骨折、等)</p> <p>○切断・脊髄損傷</p> <p>・損傷部位と障害</p> <p>○疾患・障害等について、疾患・障害等の特徴を踏まえた日常生活動作の支援を実</p>	<p>テキスト『ADLとその周辺』『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学』</p> <p>『家庭でできるリハビリテーション シリーズ1 起きましようすわりましよう理学療法士がすすめる動作の介助法』</p>

		<p>施するための知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更衣、食事（摂食・嚥下）、排泄、入浴、整容、コミュニケーション、自立支援、残存機能 <p>●導入講義 20分</p> <p>●演習 50分</p> <p>（レポート課題を相互に紹介し、理解を深めていく。自職場の利用者に即し、理解を深める。）</p> <p>●フィードバック講義 20分</p>	<p>※事前課題を活用し、グループワークを実施する。</p>
<p>12:15～13:15 13:15～14:45</p>	<p>昼食休憩</p> <p>1 疾患別リハビリテーションの基礎</p> <p>※3. 日常生活動作（ADL）介助・支援</p> <p>1と3を合わせて講義と演習を行う。</p> <p>（担当：来島）</p>	<p>講義形式と演習</p> <p>○知的障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的障害、適応障害 <p>○発達障害</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広汎性発達障害 ・学習障害 ・注意欠陥・多動性障害 <p>○疾患・障害等について、疾患・障害等の特徴を踏まえた日常生活動作の支援を実施するための知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更衣、食事（摂食・嚥下）、排泄、入浴、整容、コミュニケーション、自立支援、残存機能 <p>●導入講義 20分</p> <p>●演習 50分</p> <p>（レポート課題を相互に紹介し、理解を深めていく。自職場の利用者に即し、理解を深める。）</p> <p>●フィードバック講義 20分</p>	<p>テキスト『ADLとその周辺』『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学』</p> <p>『家庭でできるリハビリテーション シリーズ1 起きましようすわりましよう理学療法士がすすめる動作の介助法』</p> <p>※事前課題を活用し、グループワークを実施する。</p>
<p>14:45～15:00 15:00～16:30</p>	<p>休憩</p> <p>1 疾患別リハビリテーションの基礎</p> <p>※3. 日常生活動作（ADL）介助・支援</p> <p>1と3を合わせて講義と演習を行う。</p>	<p>講義形式と演習</p> <p>○その他の疾患</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白内障、緑内障 ・老人性難聴等 <p>○疾患・障害等について、疾患・障害等の特徴を踏まえた日常生活動作の支援を実</p>	<p>テキスト『ADLとその周辺』『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学』</p> <p>『家庭でできるリハビリテーション シリー</p>

<p>16:30~16:45</p> <p>(3日目)</p> <p>8:45~9:00</p> <p>9:00~10:30</p>	<p>(担当：来島)</p> <p>振り返りと事務連絡 (担当：来島)</p> <p>オリエンテーション</p> <p>2. 日常生活動作 (ADL) 指導 (担当：来島)</p>	<p>施するための知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更衣、食事（摂食・嚥下）、排泄、入浴、整容、コミュニケーション、自立支援、残存機能 <p>●導入講義 20分</p> <p>●演習 50分 (レポート課題を相互に紹介し、理解を深めていく。自職場の利用者に即し、理解を深める。)</p> <p>●フィードバック講義 20分</p> <p>●一日の振り返り</p> <p>●事務連絡</p>	<p>ズ1 起きましようす わりましよう理学療法士がすすめる動作の介 助法』</p> <p>※事前課題を活用し、 グループワークを実施 する。</p>
<p>10:30~10:45</p> <p>10:45~12:15</p>	<p>休憩</p> <p>4. シーティング・移動（移 乗を含む）支援 (担当：来島)</p>	<p>講義形式と演習</p> <p>○更衣・食事（摂食・嚥下）・排泄・入浴・整容等の日常生活動作全般についての知識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・更衣・食事（摂食・嚥下）・排泄・入浴・整容・コミュニケーション等 <p>●導入講義 20分</p> <p>●演習 50分 (レポート課題を相互に紹介し、理解を深めていく。自職場の利用者に即し、理解を深める。)</p> <p>●フィードバック講義 20分</p> <p>講義形式と演習</p> <p>○現在の心身機能で行える、確実・安全な移動方法の選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポジショニング ・車いすのシーティング <p>○獲得可能な移動方法の選択</p> <p>○各移動手段獲得</p> <p>○獲得すべき移動手段に必要な能力・機能</p>	<p>テキスト『ADLとその 周辺』『標準理学療法学 日常生活活動学・生活 環境学』</p> <p>『家庭でできるリハビ リテーション シリー ズ1 起きましようす わりましよう理学療法 士がすすめる動作の介 助法』</p> <p>※事前課題を活用し、 グループワークを実施 する。</p> <p>テキスト『ADLとその 周辺』『標準理学療法学 日常生活活動学・生活 環境学』</p> <p>『家庭でできるリハビ リテーション シリー ズ1 起きましようす わりましよう理学療法</p>

<p>12:15～13:15</p>	<p>昼食休憩</p>	<p>の評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ●導入講義 20分 ●演習 50分 (レポート課題を相互に紹介し、理解を深めていく。自職場の利用者に即し、理解を深める。) ●フィードバック講義 20分 	<p>士がすすめる動作の介助法』</p> <p>『高齢者のための車いすフィッティングマニュアル』</p> <p>※事前課題を活用し、グループワークを実施する。</p>
<p>13:15～14:45</p>	<p>5. リハビリテーション職種との連携やチームの指導を行うために必要な知識・技術 (担当：来島)</p>	<p>講義形式と演習</p> <p>○連携とチーム指導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーション技術 ・多職種連携 ・コーチング・ティーチング <ul style="list-style-type: none"> ●導入講義 20分 ●演習 50分 (レポート課題を相互に紹介し、理解を深めていく。自職場の利用者に即し、理解を深める。) ●フィードバック講義 20分 	<p>テキスト『ADLとその周辺』『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学』</p> <p>※事前課題を活用し、グループワークを実施する。</p>
<p>14:45～15:00</p>	<p>休憩</p>		
<p>15:00～15:15</p>	<p>6. 研修振り返り (担当：来島)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●研修の振り返り 	
<p>15:15～16:15</p>	<p>7. 筆記試験 (担当：事務員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●筆記試験 (60分) 	
<p>16:15～16:30</p>	<p>8. 事務連絡 (担当：事務員)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●結果発表の方法、今後の研修の流れ等 	